

カンボジアスタディツアー 活動報告

2018年9月

筑波大学公認学生団体
WorldFut TSUKUBA



目次

1. 団体概要 p 2
2. スタディツアー概要 p 3

各企画について

3. サッカー教室 p 6
4. インタビュー調査 p10
5. お茶会 p15
6. グラウンド整備 p19

1. 団体概要

1. 団体名

筑波大学公認一般学生団体 WorldFut TSUKUBA(ワールドフットツクバ)
(団体HP: <http://worldfut-tsukuba.com>)

2. 活動理念

幸せと笑顔で溢れる世界を作るために、サッカーを通してすべての人々にキラキラ笑って暮らすキッカケを提供する。

3. 活動内容

私たちは「サッカー×社会貢献」を軸に、チャリティーフットサル大会やパブリックビューイングなどサッカーにまつわるイベントを企画・運営し、その収益を社会貢献活動に充てています。

これまでには当団体は、カンボジアのプレイベン州にあるスマオン小学校において、サッカーボールの提供をはじめ、サッカー環境の整備や小学校舎の建設などの支援を行ってきました。また、直近の支援活動と致しまして、スマオン小学校近隣のトルタノン小学校とタミン小学校でのサッカーグラウンドの建設を行いました。

また、イベントへの参加者の皆様には「サッカー」という身近なスポーツと「社会貢献」を結び付けることで、手が届きづらいと思われがちな「社会貢献」を身近に感じてもらえる機会を提供しています。

4. 今までの活動実績(一部抜粋)

【国内】

- ・ チャリティーフットサル大会
- ・ かしまビーチサッカー大会 (鹿嶋市との協力)
- ・ チャリティーパブリックビューイング/上映会
- ・ One Day Without Shoes (株式会社シンフォニー TOMS様との協力)
- ・ つくばワールドフットサル (つくば市との協力)

【国外】

- ・ カンボジアスタディーツアー (年2回)

【これまでの支援】

サッカーボール/ビブス/ユニフォーム/運動靴/ボールかご/缶パン/グラウンド建設

2. スタディツアー概要

【概要】

期間： 9月15日～9月23日 9日間

参加人数： 15名

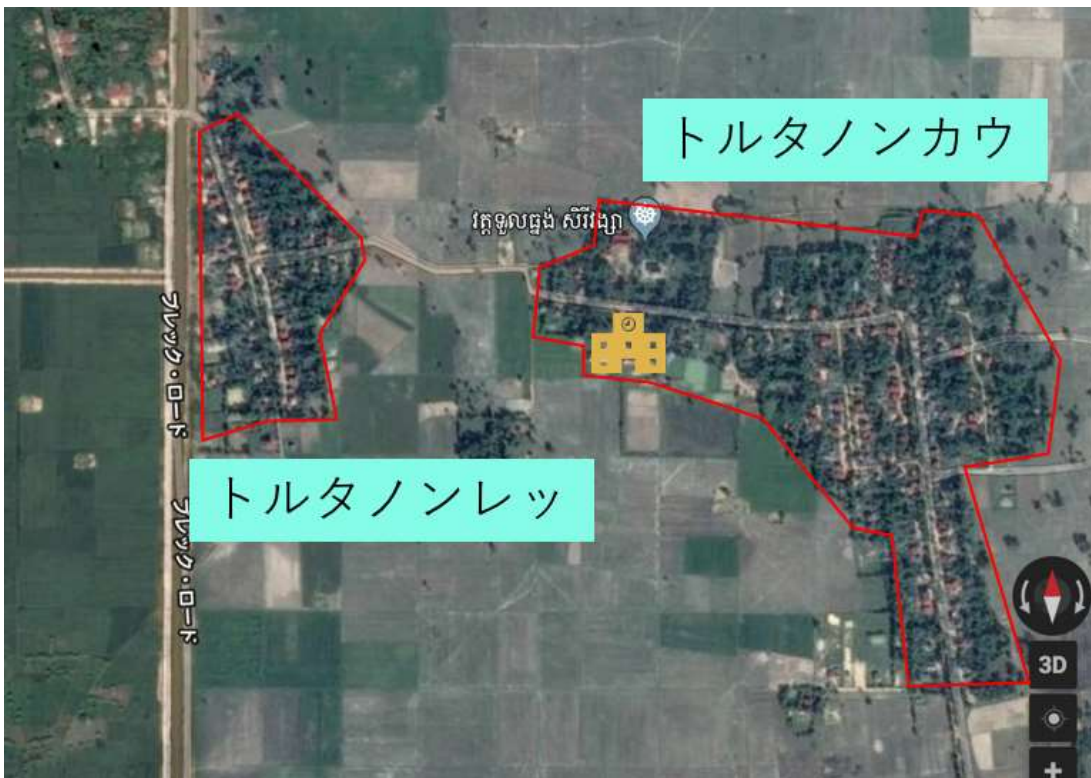
滞在場所：カンボジア王国 プレイベン州

【訪問した村】

カンボジア王国 プレイベン州 トルタノンカウ村、トルタノンレッ村、タミン村

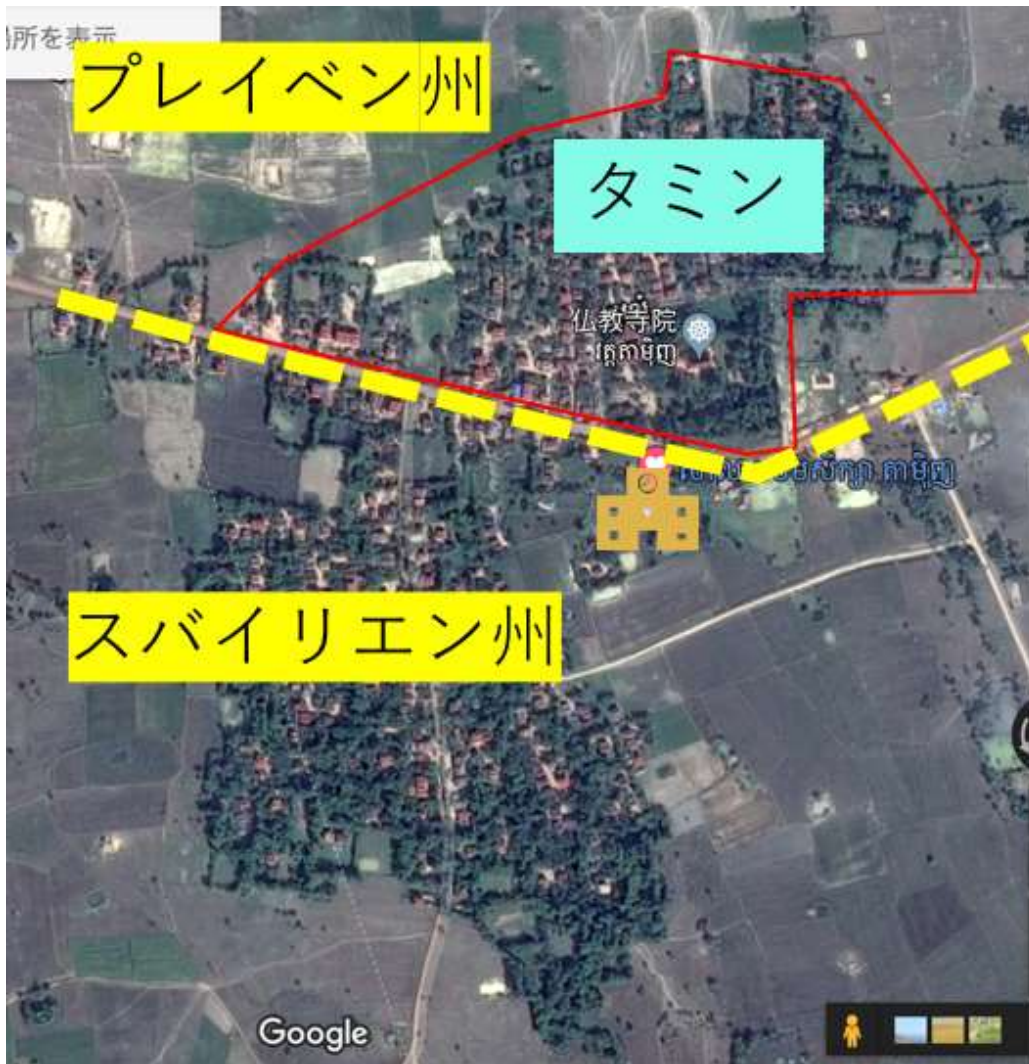
●トルタノンカウ村 トルタノンレッ村

トルタノンカウ村にはトルタノン小がある。トルタノン小は当団体が支援しており2017年にグラウンドを建設している。トルタノンレッ村はトルタノン小に通う子供たちが住む村である。トルタノンレッ村はトルタノンカウ村に比べコンクリート造の家が多く裕福な印象を受けた。どちらの村にも電気、水道は通ってない。水は雨水を利用して生活している。



●タミン村

タミン村にはタミン小学校があり、この小学校のグラウンドは当団体が支援し2018年に建設している。タミン小に通う学生はタミン村だけでなく他の村からもたくさん来ている。小学校はスバイリエン州に位置するがタミン村のあるプレイベン州の学校としている。タミン村も同様に電気水道が通っていない。電気はソーラーパネルを使用して発電している。



【ツアー目的】

支援先である小学校と小学校が所属する村の、サッカー環境と教育環境の現状を探ることを目的として行う。

【活動内容】

今回の訪問では、支援している小学校でサッカーをする環境と教育環境についての調査、サッカー教室、グラウンド整備、子供達への密着取材を行う。

調査については各村の校長先生、先生、住民、小学生、村長を対象に、今回の調査内容は継続して行うことでその結果を比較するために行う。

サッカーをする環境については、サッカーが地域で盛り上がっていること、サッカーに対する意欲を子供達が持っていること、サッカーの道具が揃っていること、グラウンドが保持されていること、以上の条件が満たされる状況と定義する。今回の訪問ではそれぞれの条件に関するインタビュー調査を行い、その結果は次の訪問時に行う調査結果との比較に用いる。

教育環境については、先生が教育に対して意欲を持っていること、子供達が小学校に通えていることと定義し、先生や校長先生との対談を通して小学校の仕組みや先生の教育に対する考えなどを聞く。

また村の住民とはインタビューで聞き出せなかったニーズなどを探るため村の住民と気軽に話しあえる会合のような場を設け、その機会を通して私たちの活動や意図を知ってもらうことで住民たちとよりよい関係を築きたいと考えている。

次にサッカー教室については訪問期間中、毎日開催し子供達のサッカーに対する意欲、ルールの理解度、サッカーの技術レベルについて調べるために行う。またサッカー教室では身体検査と体力測定を行う。

グラウンド整備については、子供達とグラウンドを綺麗に使用するためのきまりを考え、それらをポスターにし掲示する。

子供達への密着取材は対象地域の生活の現状を把握し、長期的かつ継続的な支援の効果を計測するための材料を得るために行う。具体的には、対象生徒の学校や家庭での様子を観察し、また親の職業や家計などを調査し経済状況を把握する。

サッカー教室

文責 加藤

【実施日・場所】

9/15～9/19

午前→タミン小 午後→トルタノン小

9/20～9/23

トルタノン小

【対象】

トルタノン小・タミン小周辺に住む小学校1年生～中学校3年生

【目的】

タミン小においては5日間、トルタノン小においては10日間を通してサッカー教室を行った。これまでも現地でサッカー教室を行ってきたが、単発なものであった。今回は5日間、または10日間を通して行うことで段階的な練習メニューを組み、子供達のテクニク・メンタルの両面において向上を目指した。

また、私たちが現地にいない間に子供たちだけでもできるメニューを教えることで、自発的かつ継続的に練習をしてもらうことも目指した。

【練習概要】

午前中は9時～11時、午後は2時～4時の間に行った。トルタノン小では人数が多かったため、小学校高学年～中学生と称する低学年に分けて練習を行った。

用具はビブス・マーカー・ボール・ホイッスルをそれぞれ日本から持参して使用した。また、以下のような簡単なクメール語を覚えて使い、子供たちと直接コミュニケーションをとりながら練習を行った。

集まれ： タッ ジョン クニアー	止まれ： チョウ
並べ： ドム ロム ジュール	静かに： ソム スガアト
聞いて： ソム スダァフ	よーい： トリウム
あきらめるな： コム アス サム カンム	おいしい： ウイス
とても～： ～ナハ	上手： プーカイ
よい： ラオ	よくない： マン ラオ
右足・左足： スダム・チュウイーン	真似して： ブウー ターン
ゆっくり： ムイムイ	わかった？： ヨル ナウ？
座って： アン クイ ッチョ	ついてきて： ダーン ダン クニョム

・練習メニュー

基本的に以下の流れで行った。1. 2. 3. 5は毎回の練習で行い、4は後半のトルタノン小でのみ行った。

1. 準備体操

サッカーをする前に準備運動を行った。「けがの予防のために準備運動をする。」と子供たちに説明しながら行った。また、片足立ちやダッシュ&ストップなどを行い、子供たちのバランス能力や走力の向上を図った。



2. ジョギング&ステップ

マーカーを置き、その間を軽いジョギングやサイドステップ、バック走、スキップなどを行った。スキップは初日には全くできない子が多くいたが、5日ほど経つとほとんどの子ができるようになった。また、毎日同じやり方では飽きられてしまうためチーム対抗にして競争する形式に変え、一番早いチームや一番上手にできたチームが勝ちというように工夫した。



3. ドリブルorパス練習

サッカーにおいて基礎にあたる練習であるため、時間をかけて反復練習を行った。ドリブル練習では、右足のみ・左足のみ・足の裏のみ・後ろ向き・アウトサイドのみ・インサイドのみ、などと子供たちの上達度合いに応じて制限をつけて少し複雑な内容にしていた。パス練習では、三角形に置かれたマーカーの書く頂点に並び、三角パスの練習をした。



4. ゲーム型練習：パスゲーム、1対1、2対2、3対3

より実戦に近い形の練習をするために行った。パスゲームでは実力差、体格差を考慮し、小学6年生以上とそれ以下の2グループに分けて行い、各グループで4人または5人のチームに分けて行った。制限時間1分以内に先にチーム内で10本パスをつなげたチームの勝利というルールをつけた。両方のメニューにおいて、子供たちにはボールに集まらずにコートを広く使うということを意識させた。



5. ゲーム

毎回練習のあとに行った。



インタビュー調査

文責 竹本太資

【実施期間】

9/15～19の5日間

【対象】

- ・タミン村一村長・村民
- ・タミン小一校長先生・先生
- ・トルタノンカウ村一村長・村民（トルタノンレッ村一村民）
（※ここでは上の二つの村を区別せず「トルタノン村」と表記する）
- ・トルタノン小一校長・先生
- ・これまでの支援地とは違う村（今回はプレイダリン村（タミン小をさらに進んだところにある村）とトルタノン村に向かう途中の村）

【概要】

企画目的

- 1 スタツアに行く前に仮決定した「支援の目的系図」の「サッカー熱がある」というところに対して、支援地にまず「サッカー熱」があるのかということ調べ、WorldFutが支援する対象として「ニーズがあるか」「やりたいことを成し遂げられるか」ということを判断する材料を得る。
- 2 また先生の教育に対する思いや、教育方法などを調べることによって、支援地の教育整備状況を把握する。
- 3 村長の記録している村民の数や子どもの数と学校に通っている人数に差が無いか調べる。
- 4 これまでの支援地とは違う村を訪れて、自分たちのやりたいことを成し遂げることができるのは本当に今の支援地なのか、他の村と現在の支援地はどう違うのか、などを調べることで「支援の方針」を決定していく材料にする。

企画内容

- 1 以下の質問項目を順番に適宜省きながらインタビューを進めた。

テレビはありますか
テレビでスポーツは見ますか
何のスポーツを見ますか
W杯は見ましたか
どれくらいサッカーをテレビで見ますか
好きなサッカー選手はいますか
何をして子供が遊んでいるか知っていますか
子供が欲しいと思っているものはありますか
家にどんなサッカー用品がありますか
追加の質問

- 2 主に二つの種類の質問を行なった。ひとつは、各小学校の先生の個人的なキャリアや教育に対する思いについて、もうひとつは、各小学校の授業形態や全校生徒の数、成

績評価方法、ドロップアウトの有無などについてインタビュー形式で行なった。

- 3 村長に住民台帳のようなものを持ってきてもらい、村に何歳の層がどれくらいいるのかを聞いた。またその中で小学校に通う年齢の子どもの数も聞き、実際に学校に通っている人数と比較を行なった。
- 4 2018年春のスタツアで行なった基礎調査と全く同じ質問項目でインタビューを行ない、現在の支援地の現状との比較を行なった。

【結果】

※インタビュー結果については別途まとめたものを作成中であり、ここでは細かい内容ではなく、インタビューして感じた村の雰囲気について言及していきたい。

- 1 両村ともTVを持っている世帯がほとんどである。（タミン村；9軒中7軒/トルタノン村）どの世帯もTVでは主にドラマを見るようで、私たちのホームステイ先の家でもお母さんが夜遅くまでドラマを見ていた。ドラマの次に人気であるのがボクシングとサッカーである。サッカーを観ない世帯もあったがそのような家は女性が多いなどの特徴が見られた。決して女性がサッカーが好きではないということではなく、実際にタミン小の女性の先生（校長先生の娘）はサッカーを観るのが好きだそう。また子どもでもサッカーの好きな女の子は見られた。タミン小付近ではあまりサッカーを観る世帯が多くなく、その一つの要因としてインタビューを行なった午前中に家にいるのが、女性が非常に多かったということも挙げられる。それに対してトルタノン小付近では、サッカーを観ない世帯も少しはあったが、ほとんどの世帯がサッカーを観るようである。中でも、トルタノン小の横の家（お茶会で場所を貸してくれたおじいさんの家）では毎日サッカーを観るそうで、その孫はチェルシーファンでアザール（ベルギー代表）が好きと答えていた。（その孫はほぼ毎日サッカー教室にきていた。）またW杯については前述したサッカー好きの世帯以外では「知っている」という答えはなかった。TVで試合を観るといってもそれがどのような試合かわからずに観ているようである。

タミン村とトルタノン村の違いは、トルタノン村の方がサッカーに対して興味がある人が多く、トルタノン村の方が「サッカー熱がある」ように感じられる。その違いの原因が「トルタノン小にグラウンドができたのが2年前」ということが関係してくるのかもしれないと感じた。

2 各小学校の先生の個人的な質問について

タミン小では校長先生とその娘（先生）に質問を行なった。どのように先生になったのか、大学でどんなことを学んだのか、どのような時に先生としてのやりがいを感じるか、などについて質問した。若い先生は学生時代、平日に大学に行き土日に教育の学校に通っていたそう。

トルタノン小では校長先生と若めの男性の先生に質問を行なった。質問の内容はタミンと同じである。

どちらも共通していたのは、「教えることが好き」ということであった。これは「教えるのは好きですか」という質問ではなく、「なぜ先生になったのですか」という質問でこのように答えていた。また共通していたことは、両校長先生とも大学ではなく、教師になるための学校（？）に通っており、両小学校の若い先生は大学を出ているということである。またちょうど夏休みの時期で授業がないため州の教育庁のようなところで先生の勉強会のようなものがありそれに参加していたらしい。

各小学校の授業形態・成績評価などの仕組みについて

両小学校とも大きく違いはない。両小学校とも職員室に毎年の生徒数の増減を記録する横断幕(?)のようなものがある。またきちんと出席をとっており、テストも行ない成績順に名前を並べた用紙もある。ただテストは先生の手書きのものであり、それをティエンプルー市場(近くの市場)のコピー機でコピーしてテストを行なっている。



(写真左 ; タミン小テスト 写真右 ; タミン小各年度の生徒数)

- 3 今回村の人口を改めて把握することも含めて行なった調査であるが、それ以前にある根本的な事実が判明した。それはトルタノン小に通っている子どもはトルタノンカウ村とトルタノンレッ村から来ているということである。さらに私たちがトルタノン村の村長だと思っていた人物が実はトルタノンカウ村の村長であることがわかった。またトルタノンレッ村の村長についてトルタノンレッ村の村民に聞くとトルタノンレッ村にはすんでいないということがわかった。本来の目的である村の子どもの人口と実際に学校に通っている子どもの数の比較はこれから行ない調査結果として残す予定。

4 プレイダリン村

住んでいる家や人はさして変わらないが、目に見えてというよりは雰囲気として貧しさを感じられる村であった。道が複雑かつ狭く車が通ることがあまりないのではないかと推測される。しかしそこで出会ったもうすぐ中学生(カンボジアは10月始まり)の男の子は現地で会った中で一番英語が上手であった。近くにグラウンドのある小学校はないが中学校があるのでそこに子どもは遊びに行くことがあるらしい。

もうひとつの村

国道からトルタノン村に向かう途中に通る村であり、KHJの調べではトルタノン村より貧しい村であるとのことだったが、あまり違いが見られなかった。逆に裕福にも見えたが、あのあたり一帯の特徴として、国道に近づくにつれて裕福になっていくと考えられる。また基礎調査と並行してサッカー熱についてのインタビューも行なったところ、「サッカーで村を盛り上げたい」という熱い想いを語ってくれたお母さんがいた。



(写真左；タミン小先生とメンバー 写真右；プレイダリン村でのインタビュー後)

【課題】

1 「サッカーが好きであってほしい」という気持ちに流されている可能性はある。また

サッカーというところにアプローチすると女性を拾いづらいということもこの先考えていけないと行けないことであろうと感じた。

またトルタノン小とタミン小で全く違うアプローチの支援が必要になってくる可能性もあるのではないかと感じた。改めて「WorldFutがサッカーを使って何を成し遂げたいのか」ということの重要性を感じた。

- 2 タミン小は11人、トルタノン小は6人と先生がまずまず生徒数に対して少ない。また夏休み期間であったため、全員の先生にインタビューできなかった。
- 3 村の人口や村長のプロフィールなどをきちんとまとめ直すことが必要
- 4 改めて支援の方針とともに、「本当にこの支援地でいいのか?」「ニーズはあるのか?」ということを考えなければならない。

【展望】

今後も継続的に調査を続けていく必要があるが、現在のような外堀の質問ではなく、プロジェクトを起こしてそれに必要な調査を行なっていく段階に持っていくために、現在の調査をしっかりと残していく。それにより、WorldFutの支援で村がどのように変化したかだけでなく、「支援の終わり」を判断する計測可能な基準を決定することにもつながっていくと考えられる。

【所感】

春の基礎調査もそうであるが、きちんとわかりやすく残していく必要がある。何年か後に同じような調査をしなくても、見ればわかるように整理したい。また今回のスタツアでは村人を知っていくことがメインであったが、これから何をしていくかが見えてきたらプロジェクトやゴールに直接関連した事柄を行なうスタディツアーになっていけばいいと思う。

お茶会

文責 幸坂麻琴

【実施日・場所】

9月18日 タミン村 村長の家
20日 トルタノンカウ村 村人の家
21日 トルタノンカウ村 村人の家
23日 トルタノンレッ村 村人の家

【対象】

支援先である小学校がある村の住民

【概要】

・企画目的

- ①村の現状や住民のニーズを探る
- ②支援者であるWorldFutの存在や現地での活動を知ってもらう

・企画内容

インタビュー調査を行う中で特に仲良くなった村人をお願いして村人を家に集めてもらい、彼らの日常生活の話をはじめとする様々な話をした。日本から持ってきたお菓子を配り、住民たちに話をしてもらいやすくした。会話は通訳を通して行った。

①タミン村 村長の家

村長の家では度々集会が行われているため村長に村人を集めてもらった。15名ほどの村人に集めてもらった。女性の割合が多かった。私たちと話をする会ということで村の女性たちは首にスカーフのような布を巻いて来ていた。女性が首にスカーフを巻くことは客が来た時やかましかった場に行くときにすることである。

話のはじめは村人たちの日常生活についての質問から始めた。彼らのほとんどは朝4:00に起床し、女性は朝ごはんを作り男性たちは仕事へ行くことがわかった。しかし就寝時間は様々で21時に寝る人もいれば24時に寝る人もいた。お茶会で配った日本のお菓子はおせんべいで、カンボジアのお菓子は甘い味しかないため驚いていたが美味しいと言っていた。

私たちが支援して建設された小学校のグラウンドへ毎日子供が遊んでいるのを見に行く人もいた。小学校のグラウンドに遊びに来る子供はタミン村以外の子供もいるということがわかった。



(タミン村 村長の家にて)

②トルタノンカウ村 小学校近くの村人の家

トルタノン小で子供たちがサッカーをしているのをよくみに来るお父さんの家で行った。ここでは日常生活だけでなく、子供の教育やお金、出稼ぎについての話を聞いた。子供の教育に関して、勉強することはいいことだがお金がないので中学生くらいになったら早く働いて欲しいと言っていた。しかし勉強して高校や大学まで進学すればもっと給料の高い仕事に就けることを村人たちは知っているが、お金がかかるのでそれは難しいと話していた。小学校の昔と今で変わったことの話聞いた。昔は木造で先生と生徒はあまり仲が良くはなかったそうだ。今は先生と生徒は仲が良く生徒数と先生の数は昔よりも増えたそうだ。昔は子供を学校へ行かせたくなかったそうだが状況が変わり、今は学校へ行くことはいいことだと思っている。



(トルタノンカウ村にて)

③トルタノンカウ村 バレボールコートがある家

トルタノンカウ村の大人たちの娯楽としてバレーボールがある。バレーボールコートがある家にはたくさんの若者が集まるので、この家でお茶会を開催した。この秋に中学に進学する子供たちが多く来てくれたのでその子たちとも話をした。子供たちの話だと村の子供の中には中学に進学できない子もいるようだ。理由は行くのが面倒だからで交通手段であるバイクがないのとは関係がないようだ。中学へ行くのは勉強をしたいからだそうで、進学をみんな楽しみにしていた。バレーボールコートを使用する際には使用料を徴収される。村の人はバレーボールがとてもうまく、日本の大学生である私たち以上の実力だった。

④トルタノンレッ村

トルタノンレッ村では近所一帯が親戚である女性の家で行った。ここでは日常生活についての話を主にした。村人たちは雨水で主に生活しているので雨が降ると嬉しいらしい。最近、村の近くで洪水が起きたようだ。支援している小学校のグラウンドや私たちの活動についての話もした。たくさんの人たちにグラウンドを使って欲しいという話をしたところ、女性でもサッカーをすることはできるのかと聞いて来たり、おじいちゃんやおばちゃんにも文字を教えて欲しいと言って来たり、小学校のグラウンドについて関心があることがわかった。



(トルタノンレッ村にて)

【所感】

お茶会では村人の生活について詳しく聞きことができ、支援先の村の実態をつかむことができた。しかし村にあるニーズや問題を探るのは難しく質問の流れや聞き方を考える必要がある。またお互い共通の言語がなく通訳を介して話をするしかないので、会話をする難しさを感じた。私たちの活動を伝えたり村の現状を把握したりするには、村人と話やすい場が必要なため今後も現地で活動する際にはお茶会を行っていきたいと思う。

グラウンド整備

文責 久保田優芽

【実施日・場所】9月22日 トルタノン小グラウンドにて

【対象】トルタノン小の子供たち、サッカー教室に参加した子供たち

【概要】

企画目的

”整備”という概念を持ち込み、グラウンドを長く大切に使うため。また、現地の人主体で整備を行っていくためのきっかけを作るため。

前は、グラウンド整備としてゴミ拾いを実施したが、今回はサッカーボールなどの備品の管理とグラウンドを常にきれいな状態にするという子供たちの意識を高める。

企画内容

- ・教室にイラスト看板を設置する



“ごめんねと言える人になろう”



”ゴミはゴミ箱へ”

- ・子供たちへグラウンドを整備することでサッカーがさらにうまくなることを伝える



- ・グラウンド内のゴミ・小枝を除く



・水たまりの水を抜く



・草を抜く



- ・グラウンドが平らになるように土をならす

企画段階からの変更点

- ・夜間の降水によって思った以上に水たまりができていたため、水抜き・草取りを行った。
- ・サッカーボール入れ：学校や個人で管理しているようだったので、作成することをやめた

【成果】

水たまりの水を抜かなくても、草を抜かなくても子供たちはサッカーをすることができる。そのような中でグラウンド整備を行うことの重要性を子供たちに伝えることが出来た。また、サッカー教室の前に自分の家からゴミ袋代わりに土嚢袋を持参し、ゴミ拾いを始める子供やグラウンド整備を行った翌日、私たちが到着する前に水抜きを行う子供がおり自主的にグラウンド整備に取り組む姿が見られた。一人が始めたら周りの子供たちも一緒になって取り組むという子供たちの性格も以上のような成果があげられた要因であると思う。



【課題】

水抜きに関しては、プラスチックのコップで地道にすくったり、土嚢袋ですくったりとかなり地道な作業だった。近くにあるティエンルー市場で購入できるかわからないが、スポンジのように水を吸えるような物があればもっと効率よく作業ができると感じた。

また、雨によってグラウンドの土がかなり流れてしまっていた。先生は自分たちで土をかぶせるなどと言っていたが、適切な時期や、かぶせかたなどもこちらでフォローできたら良いと思う。

【所感】

グラウンドの状態が良くても悪くても子供たちは毎日サッカーをする。グラウンド整備の大切さがどこまで子供たちに根付いたかはわからないが、自発的にゴミ拾いや水抜きをするという作業は継続してほしいと思う。また、今回は夏休みだったこともあり、サッカ

一教室に来ていた中学生の影響が大きかった。トルタノン小のグラウンドをいちばん使う小学生たちがグラウンド整備について考えてくれたらうれしい。